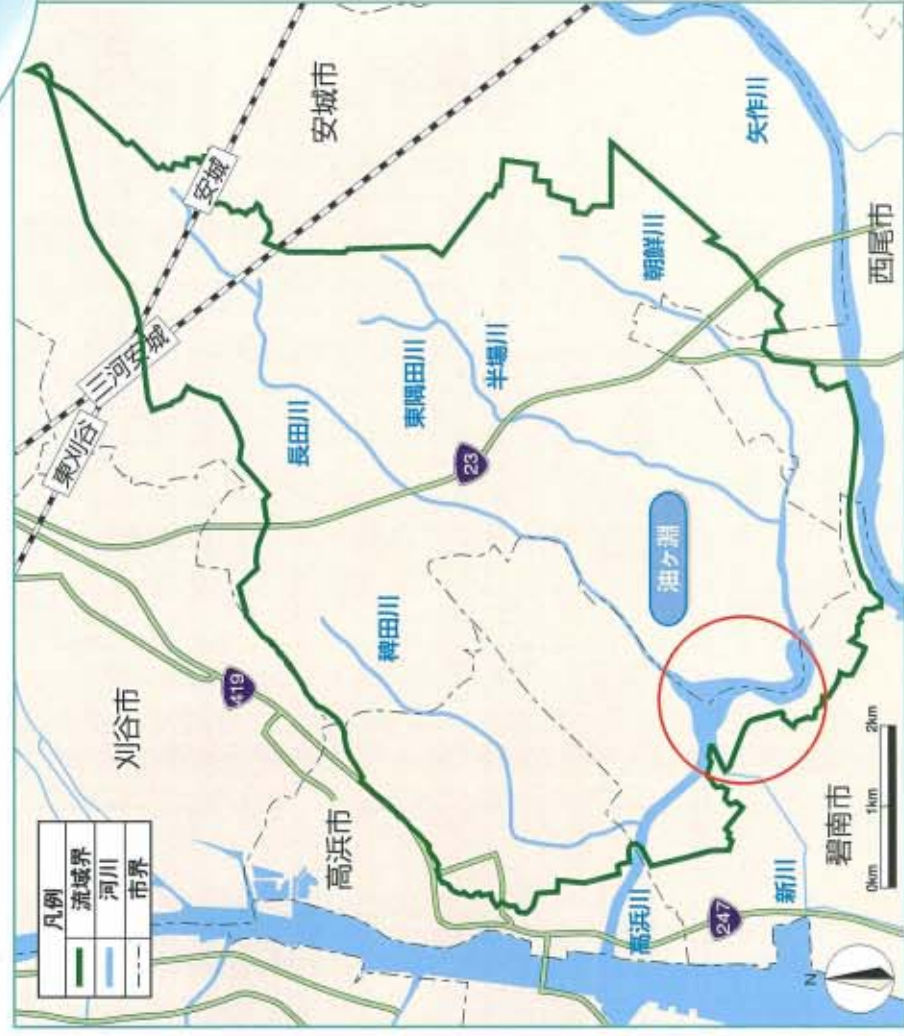


目標達成に向けて

油ヶ淵の水質を改善していくためには、流域にお住まいの皆様方と情報を共有しながら一緒に取り組んでいく必要があります。

- ① 下水道への接続を始めとする生活排水対策
- ② 化学肥料・農薬の使用の低減などの環境保全型農業の実施
- ③ 下水道接続の際に不要となった浄化槽を雨水貯留槽へ転換
- ④ 雑草の草刈り及びゴミ等の除去の清掃活動
- ⑤ 学校や市民団体による透視度などの簡易モニタリングの実施

など、水質浄化に向けて、出来ることから取り組みはじめることが目標達成に向けて非常に重要なこととなりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



油ヶ淵は、愛知県中央南部の碧南市と安城市の境、高浜川河口から2km上流の低平地に位置する。湖面積0.64km²、湖周囲6.3km、平均水深3m、最深水深5mの愛知県唯一の天然湖沼(汽水湖)です。

清流ルネサンスⅡ 油ヶ淵水質浄化促進協議会メンバー
—— 愛知県・碧南市・安城市・西尾市・高浜市 ——

問い合わせ窓口……
愛知県建設部河川課・下水道課
名古屋市中区三の丸3丁目番2号
電話(代表) 052-961-2111



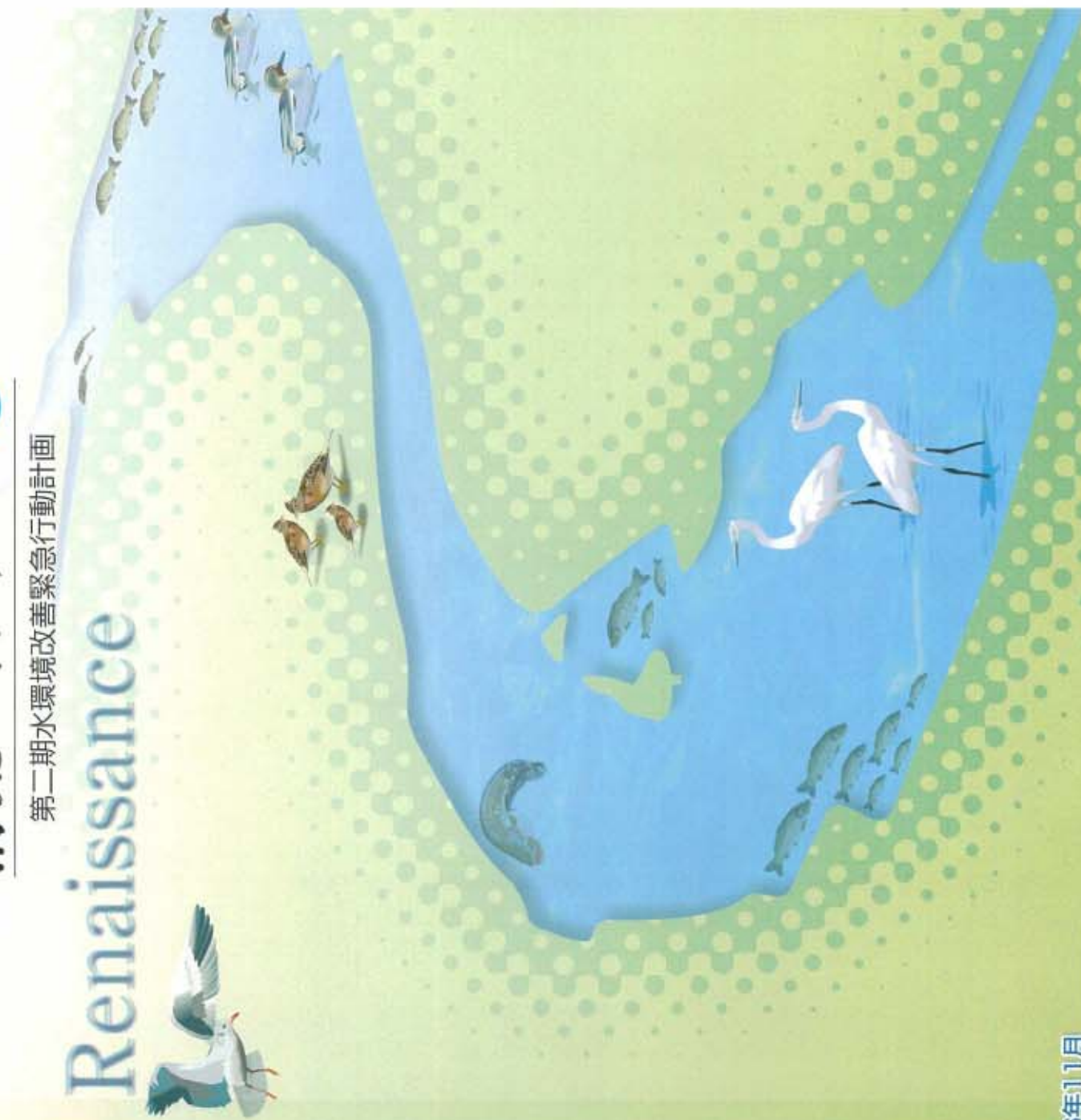
R100
古紙配合率100%

愛知県唯一の天然湖沼

油ヶ淵 清流ルネサンスⅡ

第二期水環境改善緊急行動計画

Renaissance



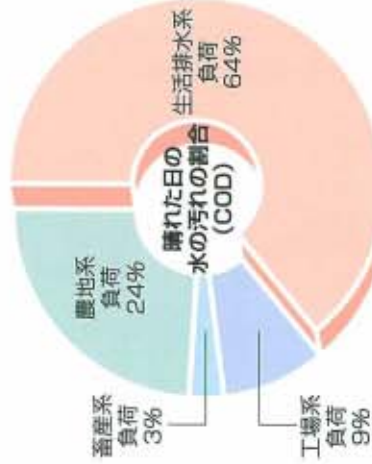
平成16年11月
油ヶ淵水質浄化促進協議会

Action! 油ヶ淵

油ヶ淵の今のすがた

油ヶ淵の水質は現在どのようになっているか知っていますか？
水質汚濁の指標であるCODは下のグラフのとおり、
毎年環境基準値を上回っており、全国の湖沼の中でも水質の悪い湖沼となっています。
これは家庭からの生活排水が主な原因です。

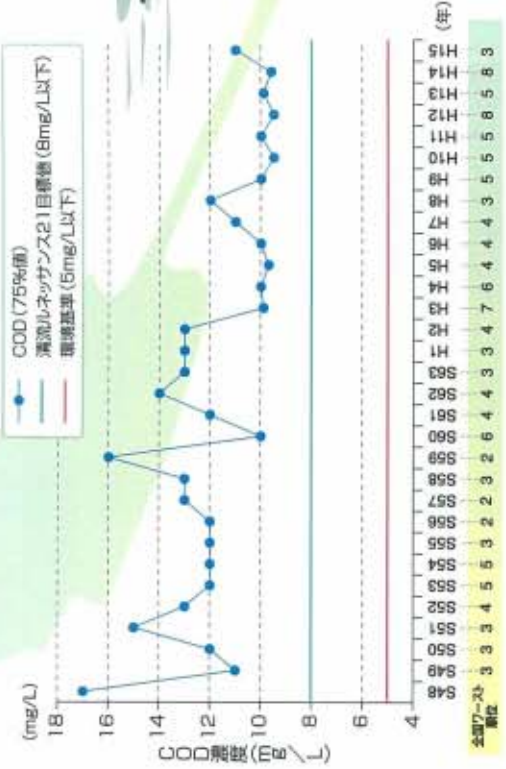
また、このような汚れた排水などは油ヶ淵にたまっていくヘドロの原因ともなっています。



▲油ヶ淵流域で発生するCODの割合



▲油ヶ淵にたまっているヘドロ



▲油ヶ淵のCODの推移

事業概要

油ヶ淵湖内・河川浄化対策

底にたまっているヘドロを取り除いたり(しゅんせつ)、
砂を被せてヘドロを閉じ込めます(覆砂)。
また、湖底の凹凸を修復して、水を流れやすくし、
汚れた水がたまりにくいようにします。

ヘドロ対策

水辺の多自然化による生物浄化対策
油ヶ淵や河川の水辺にヨシ原等の水生植物を再生させ、
また湖岸部に覆砂を行って底生物を取り戻すことにより、
水質の浄化を進めていきます。

河川浄化対策



水生植物、底生生物の再生

ヘドロ

現況地盤高

Action! 油ヶ淵

水環境改善緊急行動計画(清流ルネサンスII)の内容

愛知県と流域4市では、平成6~12年度に「清流ルネサンス21」として、ヘドロのしゅんせつ、
下水道整備など、油ヶ淵の水環境改善に取り組んできました。この度、さらなる水環境改善を図るため、
第二期計画(清流ルネサンスII)を策定し、行政・市民が一体となって取り組んでいきます。

目標とする水環境のすがた

油ヶ淵清流ルネサンスIIでは、総合的な水環境改善に向け、水質を改善し、水環境の改善に伴い、
地域住民に潤いや安らぎの空間を提供し、また、生物の良好な息環境の創出を目指していきます。
水質の改善では、平成22年度(2010年度)までに以下の目標水質の達成を目指します。

評価項目	目標値	改善レベル
COD	8mg/L以下	湖岸遊歩道において不快に感じないレベルに改善
DO	3mg/L以上	水中の魚介類などの生物が生息できるレベルまで改善
にごり	透視度30cm以上 透明度1m以上	水辺で湖底が見えるレベルまで改善

COD(化学的酸素要求量)とは、

湖沼や海における水の汚れの程度を数字で表したもので、数値が大ざいほど水中に有機物が多く含まれ、汚れていることを示します。

DO(溶解酸素量)とは、

水中に溶け込んでいる酸素の量を示すもので、水中の酸素が少ないと水生生物は生息できません。

透視度、透明度とは、

水のごりの程度を数字で表したもので、同項目とも数値が小さいほどにごりがあることを示します。

流域での対策

油ヶ淵の水質汚濁を改善するために最も効果的な対策である生活排水対策のうち、
下水道整備等が遅れています。
このため、下水道整備・下水道への接続の推進を始め合併浄化槽の設置などを進めていきます。

区分	下水道普及率(平成15年度末)
全国	67%
愛知県	61%
油ヶ淵流域	38.0%

産業排水対策

工場や事業場からの排水対策(規制、指導、啓発)を事業者と協力して進めていきます。



下水処理場へ
(石油汚染浄化センター)
(安井川浄化センターへ)

流入河川において、水質を浄化するための施設を運転・管理していきます。

生活排水対策

河川浄化対策

農地や降雨時の市街地などから流出する汚濁を軽減するため、環境保全型農業*などを進めていきます。
*環境保全型農業とは化学肥料、農薬などの使用に伴う環境への影響をできるだけ軽減し、環境の保全と生産性の維持を両立させるこれからの農業です。

土地由来による汚濁の対策

湖沼・河川や道路・公園などの清掃、環境美化意識向上に向けての活動を地域の皆様と連携しながら進めていきます。
あわせて、情報の共有も進めていきます。

市民との連携



河川愛護活動の推進